

推薦の言葉

薬剤師は医療従事者として、専門知識を有し、患者にとって重要な治療の1つである“薬”を扱うすべての実務を通じて、患者の生命・健康を預かる責任を負っていることを重く受け止めなければならない。したがって、何よりも、患者のために1日も早く、調剤から医薬品管理、リスクマネジメント等に及び実務の正しい修得に努めなければならない。

本シリーズは、薬剤師の実務と教育に造詣の深い監修者のもと、各執筆者の実務経験に基づき、実務の発想から生まれた、優れた薬剤師実務の指導書である。特にイラストや写真を豊富に用いて、新任薬剤師や薬学生が現場に必要な技能を、能率よく学ぶことができるように工夫されている。さらに本シリーズは、読者が、書かれた内容を読んで覚えるのではなく、実際の薬局や病院での業務を行いながら、動作の目的や注意事項、さらには考察すべき点などを学び取れるという内容となっている。

本シリーズの1巻目にあたる本書は「薬局調剤」をテーマとしている。薬局調剤実務は単なる手技ではない。目的と対象によって最も適正といえる調剤行為を、工夫しながら実践できる能力である。日々進歩する医療環境下での調剤実務には、最新の知識の導入が必要であることはいうまでもないが、それにも増して、あらゆる場面に即応して患者の安全を確保し、医薬の効果を最大限に発揮させるための、適切な評価と正しい判断が必要であり、それに基づいた正しい実務行為が、自然に動作として行えることが必要である。そのために本書を通じて、監修者の意図する「手技の奥にある思い」を学び取り、調剤実務を正しい動作として修得することが大切である。

さらに本書は、薬剤師として必須の「調剤をするに当たっての心構え」を身につける上にも役立つであろう。心構え（Attitude）は、日常のあらゆる動作に伴う「態度」あるいは「姿勢」として表れ、患者に信頼され患者から選ばれる薬剤師の条件ともなる。さらに、日々のすべての実務行為を行う上で、正しい判断を下すための基準ともなり、生涯を通じて薬局実務の上で大きく役立つに違いない。

このような意味で、本書ならびに同じコンセプトのもと企画された本シリーズは、薬学生や新任薬剤師のみならず、それらの指導者、あるいは薬局・病院での実務の基本を学びたいすべての薬剤師にとって、貴重な指導書としての役割を果たすことができると確信し、推薦する次第である。

2008年9月

薬剤師認定制度認証機構
理事長 内山 充